

製作が進む愛媛ブランド材「媛すぎ・媛ひのき」を使った
松山空港のベンチ—21日午後、松山市西垣生町



空の玄関に県産材ベンチ

到着ロビーなど
松山空港配置へ

年間約280万人が利用する松山空港で県産木材をPRしようと、県木材協会が愛媛ブランド材「媛すぎ・媛ひのき」を利用したベンチやテーブルの製作を進めている。国内線の出発・到着ロビーなどに計73台配置する予定で、28日朝にお披露目式を行う。

木造住宅等地域材利用拡大事業の一環で、事業費は約800万円。パソコン操作がしやすい高さのテーブルや、高齢者が立ち上がりやすいよう座面を高くした

肘付きのベンチなど利便性を考慮し、寸法などが異なるデザインが特徴。設計を担当した東京都のデザイナー・倉橋雄二さん(60)は「木材で統一感はあるけども、高さや大きさをばらばらにすることでロビーに瀬戸内の島が点在している風景をイメージした」と話す。

松山空港ロビー内のベンチの多くは2008年に設置され、老朽化が進んでいた。同空港ビル企画部の杉山陽一郎部長(52)は「新しいベンチとテーブルの配置は、2年後の愛媛国体に向

けて玄関口となる空港の美化と利便性向上につながる。より快適に空港を使ってもらえるはず」と歓迎する。

ブランド材の加工・組み立てを担う木材加工会社の河野興産(松山市西垣生町)では、作業員らが木材をねじで固定し、オレンジ色のクッションを取り付けるなど急ピッチで作業が進む。県木材協会の三好誠治常務理事(61)は「ブランド材の良さをアピールし、林業や木材関係者のモチベーション向上にもつなげたい」と期待を込めた。(河端渉)